

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	悼春山象雄君文：文苑
Author(s)	安住，時太郎
Citation	龍南會雜誌， 1： 3 4 - 3 5
Issue date	1891-11-26
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/3705
Right	

もなく、寺の片はどりに名ざりばかりの石碑のみぞ立ちたる、表に丁丑戰死之墓としるし、池邊吉十郎氏も、つらなり玉へり、歲月あまふへぬれば、い苔のむすべるのみ、香華のうなへすらなければ、吊ふ人も絶てなきにや、午後二時ごろ、寺を出で、高等小學より、やがて山路に、うりぬ車さへ通はぬさかなれば、足は心にうい難かり、よふく下り坂となりぬ、見渡せば、青き柳の緑川は、已か色を四方の山々に、うちつつかせ、どゝろく早瀬の音、かすかにきこえて面白し、早川村には、むかし誰か籠里にし、城趾ありときりと、うすみにかくれて、見ぬわかず、いと口惜し、まだはやけれど、午後三時ばかりに、甲佐の町にやど里ぬ、夕げもすでにすぬれば、松井氏といふ人のうちに、年久しく飼ひ玉へる鶴ありとき、友どちうちつれて氏のまが稀代のきに入里見れば、丹鳥五羽優々とあそび居たり、老たるも今年三十二才ときこぬし、仙鳥とていとめづらし、やがて旅宿にかへ里うちどけあそぶ、夜もまがら水車の音すましく、なれぬたびなれば、いといふせし、

悼春山象雄君文

安住時太郎

彼蒼者天。天果有靈乎。吾不得而知之也。彼茫者天。天果無靈乎。吾不得而知之也。無靈焉。

天不得以生育萬物。有靈焉。何奪吾春山君之速也。余與君交有年於茲。審知君之爲人。君性溫厚篤實。交友以信。報怨以德。婉兮其容。溫兮其貌。宛然有君子之風。蓋君夙聞聖人之道。而志于學。其志在仕進也。孜孜矻矻。燭以繼晷。徐期他年之大成人。皆刮目而待君。榮達嗟乎。以君之德。尙人。小人之德。或以可偃風。以君之學。施于世。紛糾之政。或可以使就緒。誰謂君才以二十餘之青齡。一朝感金風。與由布山頭木葉飄零。儻所謂天者。真無靈耶。抑天有靈。而不欲社我國耶。何奪吾春山君之速也。孔子曰。朝聞道。夕死可也。如君。謂之聞道。豈不可哉。余雖爲天下不得不惜君死。君亦可以瞑矣。吾儕小人。雖志于道。道未得聞。雖就于學。學未成。私心忸怩。有愧于君也。三更夢驚。起開窓戶。明月在天。四無人聲。遙聞滔滔白川之水聲。瀏唳不絕。使余徒羨長江之無窮。想故友之情益切。噫。哀矣哉。

笠間梧園評 結末餘音嫋々文思亦瀏唳不絕

翻譯

「鐘は今晚鳴てはあらぬ」

四 瞑 軒

英吉利の太陽は徐に小足を早めて、小山の頂上を踰へて隠れ行く。四邊の景色は左も美麗で、そうして憂き一日の終りと次第次第に近いて来る。そうして其一番終り